



第39回 「Introduction to Model Context Protocol」 Anthropic 公式 Claude Academy

Claude Code

頼み方を定義する

公式の教材を、順番に

原石工房

隠れた才能に気づき、花開く

この資料について



原石工房

Anthropic とは関係のない、非公式の資料です

公式の学習サイト Claude Academy の日本語訳です

原文（英語）Introduction to Model Context Protocol /
Defining prompts

サーバーが差し出す3つめ「頼み方」に入ります

全51回の、今日はここ



原石工房

Claude Code 101

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

第1回～第12回

Claude Code in Action

13 14 15 16 17 18 19 20 21

第13回～第21回

スキル

22 23 24 25 26 27

第22回～第27回

手分け (subagents)

28 29 30 31

第28回～第31回

MCP 入門

32 33 34 35 36 37 38 39 40

第32回～第40回

MCP 応用

41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

第41回～第51回

今日はここ 第39回



Introduction to MCP の第8回

原題 Defining prompts

訳 頼み方を定義する

よく練られた指示を、こちらが用意しておくものです

① なぜ用意するのか



原石工房

原題 Why Use Prompts?

使う人は、もう直接 Claude に頼める

使う人が自分で書く

「report.pdf を markdown に直して」

作る側が用意する

隅々まで試した、その道に特化した頼み方

そこそこの結果は返る。でも、用意すればずっと良くなる

作る側は、時間をかけて練り、試し、確かめられる

きわどい場合にも備えてあり、良いやり方に沿っている

使う人は、頼み方の名人にならなくても、その腕前の恩恵を受けられます

ていねいに作られた、ひな型

使う人は、たいていのことを、もう
直接 Claude に頼めます

でも、隅々まで試した頼み方を用意
すれば、ずっと良い結果が返ります

使う人は、頼み方の名人にならなく
ても、その腕前の恩恵を受けられま
す

② 形を直す命令を作ってみる



原石工房

原題 Building a Format Command

/format 書類の番号 と打つと

① 使う人が / を打って、使える命令を見る

② format を選び、書類の番号を指す

③ Claude が、用意された頼み方を使って書類を読み、形を直す

④ 見出し・箇条書き・表の整った markdown が返る

頼み方は、道具や資料と同じ「飾り」で定めます

@mcp.prompt に、名前と説明を書きます

使う人が打つのは、1行だけ

/format 書類の番号 と打つと、整えられた markdown が返ります

/ を打つと、使える命令が出ます。
format を選び、書類を指します

Claude が、用意された頼み方を使って、読んで、形を直します

③ 頼み方を定める

原題 Defining Prompts

返すのは、Claude へ送る言葉の並び

```
@mcp.prompt(  
  name="format",  
  description="書類の中身を Markdown で書き直す"  
)
```

doc_id を Field で受け取り、ひな型に埋め込む
<document_id> の中へ、指された番号が入ります

返すのは、base.UserMessage の並び

使う人の言葉と、Claude の言葉をいくつも入れて
込み入ったやりとりを組むこともできます

検査の画面で、送られる言葉がそのまま見える
使う人が頼りにしはじめる前に、確かめられます

ひな型に、差し込んで送る

道具や資料と同じ、飾りを使って定めます

doc_id を Field で受け取り、ひな型に埋め込みます

返すのは、Claude へそのまま送られる言葉の並びです

④ 試す



原石工房

原題 Testing Your Prompts

返すのは、Claude へ送る言葉の並び

```
@mcp.prompt(  
  name="format",  
  description="書類の中身を Markdown で書き直す"  
)
```

doc_id を Field で受け取り、ひな型に埋め込む

<document_id> の中へ、指された番号が入ります

返すのは、base.UserMessage の並び

使う人の言葉と、Claude の言葉をいくつも入れて
込み入ったやりとりを組むこともできます

検査の画面で、送られる言葉がそのまま見える

使う人が頼りにしはじめる前に、確かめられます

ひな型に、差し込んで送る

検査の画面で、送られる言葉がその
まま見えます

差し込むものが、ひな型のどこへ入
るのかも分かります

使う人が頼りにしはじめる前に、確
かめられます

2つの頼み方



原石工房

使う人が書く

短い。その場しのぎ

「markdown に直して」

そこそこの結果は返る

きわどい場合は、こぼれる

作る側が用意する

長い。隅々まで試してある

何をどう直すかまで書いてある

良いやり方に沿っている

いつでも同じ出来になる

名人にならなくても、腕前の恩恵を受けられる

⑤ 良いところ



原石工房

原題 Key Benefits

良いところは、4つ

そろう

使う人は、いつでも同じ出来の結果を受け取れる

腕前

その道の知恵を、頼み方の中に入れておける

使い回せる

いくつものアプリが、同じ頼み方を使える

手入れ

1か所直せば、全部のアプリが良くなる

目指すのは、使う人が「自分で書くより、こちらを使いたい」
と思うくらい、よく練られ、よく試された頼み方です

その分野に特化しているほど、効く

そろう 使う人は、いつでも同じ出来の結果を受け取れる

腕前 その道の知恵を、頼み方の中に入れておける

使い回せる・手入れ 1か所直せば、全部のアプリが良くなる

今回のまとめ



原石工房

頼み方は、よく練られた指示のひな型

使う人は、自分で書かなくてよくなる

道具や資料と同じ、飾りで定める

返すのは、Claude へ送る言葉の並び

その分野に特化しているほど、効く



Introduction to MCP の第9回（最終回）

原題 Prompts in the client

訳 それをつなぐ側から使う

用意した頼み方を、つなぐ側から呼べるようにします

全51回の、40回目です

その頼み方、毎回書いていませんか



原石工房

隠れた才能に気づき、花開く